



令和5年度 日本大学文理学部資料館 展示会

記憶と記録の クロスロードとしての 哈爾濱

— 黒崎裕康コレクションの世界 —

2024

1/10 (水)



1/25 (木)

開館時間: 平日10:00~17:00

土曜日は13:00まで

休館日: 日曜日

入館料: 無料

主催: 日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館

協力: 日本大学文理学部史学科



日本大学文理学部資料館
Nihon University College of Humanities & Sciences MUSEUM

「記憶と記録のクロスロードとしての哈爾濱－黒崎裕康コレクションの世界－」

会 期：令和6年1月10日（水）～1月25日（木）

開館時間：平日10時～17時（土曜は13時まで）

休 館 日：日曜日

【展示会の概要】

本企画展は、中国東北地域の哈爾濱に関する研究者である黒崎裕康氏の業績を偲び、そのコレクションの一部を紹介するとともに、黒崎氏が自らの後半生において追究された「記憶」と「記録」との対話に焦点を当て、個人史および日本近代史の中で、どのように哈爾濱を位置づけようとしたのか、その軌跡の可視化を試みるものです。

黒崎氏は幼少期を哈爾濱で過ごされたが、その「記憶」は戦後長い間封印されていました。しかし、哈爾濱再訪を契機として、黒崎氏は「人生の原点」とする哈爾濱に関する資料収集および研究を本格的に始められました。それから毎年のように哈爾濱へ渡航され、コレクションの充実ぶりは目を見張るものがあり、重厚な研究書も3冊刊行されています。その足跡は、「記憶」の封印を解く旅であり、また「故里としての哈爾濱」を取り戻す旅でもあり、哈爾濱に在住した経験を持つ最後の世代としての立場から様々な「記録」に向き合い、「日本人にとって哈爾濱とは何であったのか」という課題への回答に迫ろうとする営みでもありました。

黒崎氏は激動の時代を生き抜き、2022年にご逝去されました。しかし、黒崎氏の業績は色褪せることなく、これからの時代を生きる私達に、あらためて前述した課題を問いかけています。日本大学文理学部では、研究活動の一つとして戦前・戦中期の「満蒙」関係資料の収集を精力的に行っており、その過程で黒崎氏より多大なるご助言および資料のご寄贈を受けました。日本大学文理学部資料館における最初の「満蒙」関係展示会として開催された「写された満洲－デジタルアーカイブから甦る哈爾濱都市空間－」（2009年10月開催）は、同氏の全面的なご協力がなければ実現しえなかったものです。

今回の企画展を通して、黒崎氏の本学へのご高配にあらためて感謝の意を示すとともに、「記憶」と「記録」が交差する<場(トポス)>で、黒崎氏が発した問いの持つ<重さ>に迫っていきます。

【主催】日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館